

[29-7]

DD夏期合宿報告要旨：CSEAS(1986,8,23)

東北タイ：ドンデーン村における農民移動
—— 挙家移住を中心に ——

武邑尚彦

1. はじめに

タイ国における農民移動の研究＝季節労働者、出稼ぎ農民を中心にRural → Urban Migration として議論されている（特に首都圏への移住が問題視される）

(EX.)*北原 淳 「開発と農業」世界思想社 1982

引っ張り要因（工業化・都市化および畑作商品作物の拡大）

押し出し要因（米作収益の減少、米作地の土地細分化・土地喪失、貧困と現金家計支出の増加）

両者の複雑な絡みによって職業的地理的移動をおこなう現象として一般化

*日本の研究：野尻重雄「農民離村の実証的研究」農山漁村文化協会 昭和53年

挙家移住という農家経済全体の移動を対象にした研究は、タイではあるのか？

DD村の調査では：Rural → Rural Migrationが主流（福井 1985 報告）

【報告の目的】

1965～81年におけるDD村の挙家移住の実態を分析し、その特徴を明らかにする。

*Rural → Rural & Rural → Urban Migrationの特徴理解

【資料の限界】

1964～65年の水野調査時における在村世帯と1981年調査時における在村世帯の両時点からそれぞれの世帯の家族史を検討し、挙家移住世帯を検出分析した（村の古老からの聴取りを含む）。したがって、この17年間に結婚後村内別居→移出したもの、移入→移出したものは含まれていない。この両者の検出は、我々の資料からはほとんど不可能。

【1965～81年におけるDD村の移住・滞留世帯数】

移出＝25 継続在村＝107（世代交代29戸を含む）移入＝16 村内別居＝53

*ただし、この間に賃金労働者として挙家移出したが、1～3年後に帰村したもの3戸が確認されている。行先：①ラオス②KK県ノンゲルア郡③ウドン県ウドン市

H/X/H

-48-

2. 挙家移住の実態

1). 全般の傾向(表1, 2)

- A. 移出は1974年以前に、移入は1975年以降に集中
- B. HNDに限れば、旱魃・洪水と関係ありそう
- C. 移入が1975年以降に集中するのは、村経済における現金獲得部門の増大と関連している可能性が大、同様にHNDも村の経済構造と関連しているのでは？

2). 移出(25戸)

2-1). 移出理由(表1-1)

①HND:16、②農業以外の職を求めて:5、③老親扶養のため:1、④老親が娘の世話を受ける:1、⑤再婚のため:1、⑥村人に恥じる事あって:1

2-2). HND

A. 移出先と移出年(表1-2)

- ①UDへは1974年まで、10戸
- ②TPへは1974年のみ、3戸
- ③CPへは1976~77年に、3戸

B. 村内の近親(表1-3)

近親が残留しているもの:16戸中2戸のみ、他は村内に近親なし
近親が先発隊として先行している(図表なし)

C. 移住形態(表1-4)

親・娘世帯での集団移住が多い、姉・妹世帯の場合もある

D. 農地所有状況(表1-5, 1-4)

移住時における所有農地は0~49raiに分布
親・娘世帯の集団移住の場合には、娘が農地非所有の場合がある
農地非所有の娘を除けば、その他の世帯の所有農地面積は比較的大きい

2-3). HND以外の移出

A. 移出先と移出年(表1-6)

同一行政区内(ノンコイ、ドンノイ、ドンハン)へ5、(1965~73)
コンケン市内へ3、(1967~79)
MSKのコスムビサイ市へ1、(1969)
――いずれも東北タイ内である――

7/11/77

B. 移出理由と農地所有状況（表 1 - 7）

町に職が見つかった

地方都市に住んだ方が仕事の都合がよい

ノンコイ村へ出たものは、精米所経営のため

ドンハンの老親が病気になり、その世話をするため

村内に身寄りのない独居老女が、ドンノイ住の娘に世話を受けるため

HND先で夫を亡くした未亡人がその子を連れて、ドンノイで再婚

村人に恥じる事（？）あって

――「現在の不安定な生活状態の改善」と読み取れる――

都市への移出世帯は農地を所有しているものが4戸中3戸（6～20rai）。その内2戸は娘婿が職を得たため、農地を売却移住。残り2戸はいずれも教員で都市居住の方が都合がよかった。

同一行政区内への移出5戸は、2戸を除いて農地を所有（2～22rai）。しかし、比較的小面積。

C.（図表なし）村内に近親者を持つものはほとんどなく、近親は近隣村に在住

2 - 4). 移出のまとめと若干の考察

A. 他県、他郡へのHND移出が圧倒的多数。しかし、近隣都市への求職移出も見逃せない。その他の移出は、近親関係に基づく生活状態改善のための移出が目立つ。

B. 所有農地の規模で見ると、HNDと近隣都市への移住世帯は比較的大、これに対して近隣村への移住世帯は小。この意味するところは？

所得階層（？）のある程度上位のものがHNDあるいは都市への移住が可能であったのか？

下位のものは、近隣村にいる近親との関係に生活状態改善を依存か？

3). 移入（16戸）

3 - 1). 移入理由（表 2 - 4）

①HND失敗3、[移出後9, 14, 38年後に近親（親姉妹）を頼って帰村]

②商店経営1、[他出している娘が村内に宅地を所有、これを利用しての開店]

③養子1、[子なしのおばの元に妻をつれて養入、ただし住居は別]

④別居2、[近隣村の親元で同居していたが、DDに宅地を求めて]

⑤洪水2、[近隣村ですでに世帯を構えて独立していたが、洪水頻発のため]

—8—

—50—

⑥夫と離別 1、[夫が出稼ぎ先(BKK)で重婚、息子 1 人と姉の世話になる、既に親死亡]

⑦妻死亡 1、[ターブラで結婚、妻死亡、子連れで帰村]

⑧住み易い(?) 4、[これは厳密に扱う必要あり、次の如し。a. 夫の義母が村内居住を望む、b. 夫婦で働いて宅地を DD に求めた、c. ギャンブル好きの夫[なまけもの]、妻と離婚後再婚、夫の親元近くに住む、d. コカコーラで働く夫、農地なし、DD の妻方の親の近くに宅地を購入]

3-2) . 移入前の居住地(表 2-1)

①同一行政区内 4、②県内他郡 5、③県外郡部(東北タイ内) 7

3-3) . 夫妻の出身地(表 2-3)

いずれかが村内出身(夫 13、妻 6)、いずれも東北タイ内出身

3-4) . 先住地への移住理由(表 2-2)

①夫の婚出 9 (多数)、②妻の婚出 1、③結婚後、夫の出生村へ別居 2、④結婚後、妻の出生村へ別居 1

3-5) . 入村後の状況(表 2-6)

村内に近親(親・きょうだい・おば)がいる。

大多数の 10 戸が近親から農地の相続・譲渡を受けている。

農地の相続譲渡を受けていないものも、農外就労し、現金収入源が比較的安定している。しかし、一部には安定的就労状態にないものもあるが、近親から何らかの援助を受けている。

3-6) . 移入のまとめと若干の考察

A. 移入世帯主夫婦はそのいずれか(主に夫)が村内出身である。

B. 先住地は、すべて東北タイ農村部である。

C. 大多数が入村後、まるで確約されたかのように近親から農地の相続・譲渡を受けている。恐らくは、生計維持方法についてかなり明確な見通しがあったのでは? したがって、先住地よりは DD の方に生活上よりよい状況が設定されていたか、あるいは設定される可能性がかなり大きかったと考えられる。

3. おわりに

移住先での近親の存在 = 社会的・経済的安定への希求?

表1. DD村における年度別移出・移入・村内別居戸数(1965～1981年) [その1]

	旱 洪	魁 水	移出戸数(理由)	移入戸数 (理由)	村内別 居戸数	主 な 出 来 事
			HND その他			
1964	洪	水				ターブラに東北地域農業センター発足。
65			1 (精米経)	—	2	水野浩一氏DD村調査終了。 DD村～国道間の道路ラテライト舗装。
66			—	1 (HND)	1	
67			—	—	5	
68	小旱	魁	—	—	3	
69			1 (再婚)	—	—	
			1 (就労)	—	—	
1970	小旱	魁	—	—	2	
71			—	—	4	
72	大旱	魁	—	1 (HND)	3	
73	大旱	魁	7 2 (世話)	1 (離婚)	3	
74			4 —	—	4	
75			—	3 (2: HND, 妻死)	3	DD村に電気ひかれる。小型バス一日 4便運行はじまる。
76	大旱	魁	2 1 (教員)	1 (住みやすい)	1	
77			1 —	1 (住みやすい)	8	
78	大洪	水	—	2 (店・別居)	4	
79	小旱	魁	—	3 (洪・養・住)	3	
1980	洪	水	—	1 (洪水)	3	
81			—	2 (住・別居)	4	
合 計			16 9	16	53	

<移出理由> (精米経): 精米所経営 (就): 就労 (恥): 村人に恥じることあって

(世話): 娘の世話になり、老親の世話

<移入理由> (HND): ハーナーディー失敗 (店): 商店経営のため (別居): 近隣村からの別居

(洪): 先住地が洪水 (養): 子なしの世帯の養子として

表2. DD村における年度別・移出・移入・
村内別居戸数(1965～1981年) [その2]

年 度		1965 ～69	70 ～74	75 ～79	80 ～81	戸数 合計
移出	HND その他	2 5	11 2	3 2	— —	16 9
移 入		1	2	10	3	16
村内	別居	11	16	19	7	53

表 1 - 1 . 移出理由別戸数 (1965～1981年)

	[天災]HND	精米	就労	世話	再婚	恥	合計
1965	1	1					2
66							
67			1			1	2
68 [旱魃]					1		1
69	1		1				2
1970 [旱魃]							
71							
72 [旱魃]							
73 [旱魃]	7			2			9
74	4						4
75							
76 [旱魃]	2		* 1				3
77	1						1
78 [洪水]							
79 [旱魃]			** 1				1
1980 [洪水]							
81							
合 計	16	1	4	2	1	1	25

<注>

- (HND) : ハーナーディー
 (精米) : 精米所経営のため
 (就労) : 就労の都合上
 (世話) : 娘の世話になり、老親の世話
 (恥) : 村人に恥じることあって
 * : DD小学校校長退職、KK市へ移住
 ** : 教員、KK市が住みやすいから

表 1 - 2 . HND 移出世帯の移出年と移出先 (1965～1981年)

移出年度 移出先	1965 ～69	70 ～74	75 ～79	80 ～81	戸数 合計
同郡内 (タ-プ-ラ)	—	3	—	—	3
県 ウドンタニ	2	8	—	—	10
外 チャイヤブム	—	—	3	—	3
合計戸数	2	11	3	—	16

表1-3. HND移出世帯の移出先・年度別戸数と1981年における村内近親関係

移住先 年度	県内 TP	県外 UD	合計 CP	村内の近親
1965		1	1	近親なし
69		1	1	娘夫婦に農地を全て譲渡し、移住
73	3	4	7	近親なし、(TPへ出た3家族、UDへ出た4家族はそれぞれ親子関係)
74		4	4	近親なし(4戸とも、内2家族は親子関係)
76			2	近親なし
77			1	妻の母・姉(未亡人)が残留
合 計	3	10	3	16

注) TP:ターブラ区 UD:ウドン県 CP:チャイヤブム県

表1-5. HND移出世帯の移出時における農地所有面積
(1965~1981年)

移出年度 所有面積	1965 ~69	70 ~74	75 ~79	80 ~81	戸数 合計	農地面 積合計
a=0	-	3	-	-	3	-
0<a<5	-	-	-	-	-	-
5≤a<10	-	1	-	-	1	5.00
10≤a<15	-	-	1	-	1	10.00
15≤a<20	1	2	-	-	3	62.00
20≤a<25	-	1	-	-	1	20.00
25≤a<30	-	1	1	-	2	54.50
30≤a<35	1	-	1	-	2	63.00
35≤a<40	-	1	-	-	1	35.00
40≤a<45	-	-	-	-	-	-
45≤a<50	-	2	-	-	2	95.00
合計戸数	2	11	3	-	16	
合計面積 平均/戸=20.90rai	49.00	217.00	68.50	-		334.50

表1-6. HND以外の移出世帯の移出年と移出先(1965~1981年)

移出年 移出先	1965 ~69	70 ~74	75 ~79	80 ~81	戸数 合計
県内 同一行政区内	3	2	-	-	5
コンケン市	1	-	2	-	3
県外 MSK県コスム市	1	-	-	-	1
合 計 戸 数	5	2	2	-	9

表1-4. HND移住世帯の移出時ににおける家族構成と所有農地面積

移住 年度	世帯主氏名 (F):女性	所有農地 面積(5a)	移住時点における家族構成 ():年齢	移出 先	世帯主の 続柄	村に残った家族員
1965	1. [REDACTED]	19.0	夫婦(36,?) + 未婚子4人(7-0)	UD	なし	なし
1969	2. [REDACTED]	30.0	夫婦(46,49) + 未婚子3人(17-12)	UD	3の兄の娘の夫	長女夫婦+未婚子1人
1973	3. [REDACTED]	20.0	夫婦(66,59) + 未婚子2人(20代前半の息子)	UD	2の妻の父の弟	なし
4. [REDACTED]	16.0	夫婦(50,?) + 未婚子3人(12-?)	UD	3の長女の婿	なし	なし
5. [REDACTED]	0.0	夫婦(34,?) + 未婚子1人(1)	UD	3の末娘の婿	なし	なし
6. [REDACTED]	17.0	夫婦(46,44) + 未婚子6人(17-?)	UD	3の妻の妹の夫	なし	なし
7. [REDACTED]	29.0	夫婦(70,?) + 未婚子3人(?)	TP	8.9の妻の父	なし	なし
8. [REDACTED]	49.0	夫婦(46,?) + 未婚子3人(?)	TP	7の娘の夫	なし	なし
9. [REDACTED]	35.0	夫婦(47,?) + 未婚子3人(?)	TP	7の娘の夫	なし	なし
1974	10. [REDACTED]	46.0	夫婦(58,?) + 未婚子2人 + 仲娘(次女) 未婚とその未婚子2人(4-2)	UD	なし	なし
11. [REDACTED]	5.0	未婚(60) + 未婚子(次男と末娘) 2人(23,18)	UD	12の妻の母	なし	なし
12. [REDACTED]	0.0	夫婦(36,37) + 未婚子5人(11-3)	UD	11の次女の夫	なし	なし
13. [REDACTED]	0.0	チャエック11				
1976	14. [REDACTED]	33.0	未婚(62) + 未婚夫婦(?,33)とその未婚子3人(?)	CP	なし	なし
15. [REDACTED]	10.0	夫婦(?,30) + 妻の未婚の妹(27)	CP	3の妻の兄の娘の夫	なし	なし
1977	16. [REDACTED]	25.5	夫婦(33,31) + 未婚子5人(15-7)	CP	妻の母と姉	

(注) UD: ウドン県 TP: コンケン県タープラ区 CP: チャイヤブム県

表1-7. HND以外の移住世帯の移出理由と農地所有面積

移出年	世帯主の 年齢 (移出時)	移出先	移出理由	農地所有 面積(rai) (1965年)
1965	32	*同行政区内(ノンコイ村)	糯米所経営	0.0-
1967	{1}.53(F)	*同行政区内(ドンノイ村)	娘婿の勤務の都合上	10.5
	{2}.41	*同行政区内(ドンノイ村)	村人に取組む事あって	2.0-
1968	40(F)	*同行政区内(ドンノイ村)	再婚のため	0.0-
1969	59(F)	マハーサラカム県(コスム市)	娘婿の勤務の都合上	6.0
1973	{1}.41	*同行政区内(ドンノイ村)	老親(病氣)の世話のため	22.0-
1976	{2}.64(F)	*同行政区内(ドンノイ村)	娘の世話になり(小学校長)	7.0-
1978	56	コンケン市内	勤務の都合上(教員)	20.0-
1979	40	コンケン市内	勤務の都合上	0.0

注 (F):女性 1rai=0.16ha

表 2 - 1 . 移入世帯の先住地と入村年 (1965～1981年)

移 入 年 度 先 住 地		1965 ～69	70 ～74	75 ～79	80 ～81	戸数 合計
同行 政区 内村	ドンノイ	—	—	2	—	2
	ドンハン	—	—	—	1	1
	ラオノックチュム	—	—	1	—	1
県内 他郡	ムアング郡内	—	1	2	—	3
	ナンボン	1	—	—	—	1
	チュムパー	—	—	1	—	1
他県 郡部	マハーサラカム	—	—	1	1	2
	ウドンタニ	—	1	3	—	4
	スリン	—	—	—	1	1
合 計 戸 数		1	2	10	3	16

表 2 - 2 . 移入世帯の先住地と先住地への移住理由

先住地 移住理由	同一行 政区内	県内 他郡	他 県	合 計
	ドン ラオ ノイ ノック チュム	タ ドン ブ ナム ナム ボン ベン	サ ラ カ ム ウ ス リ ン	
ハ—ナ—デ—イ— 夫の婚出 妻の婚出 婚後夫の出生 婚後妻の出生	- - - 1 1 - - - - 1 - - - - 1	- - - 1 2 - 1 - - 1 - - - - - - - - - -	- 2 - 1 2 1 - - - 1 - - - - -	3 9 1 2 1
合 計	2 1 1	2 1 1 1	2 4 1	16

* ラオノック：ラオ・ノックチュム
チュンペ：チュンペー
サラカム：マハーサラカム

表 2 - 4 . 挙家移入世帯の~~移~~村理由と~~移~~村年度

帰村 理由 年度	定住 失敗	商店 経営	養 子	別 居	洪水	夫と 別離	妻の 死亡	住み 易い	合 計
1966	1								1
72	1								1
73					1				1
75	1						1	1	3
76								1	1
77								1	1
78		1		1					2
79			1		1			1	3
80					1				1
81				1				1	2
合計	3	1	1	2	2	1	1	5	16

表 2 - 3 . 移入16戸の世帯主夫婦の出生地 (1965~1981年)

妻 夫		同一行政区内	同一郡内	別郡	他 県	合 計
		ドンデン ノイ ラオ ノック	タドン ブラム	チュン ベ	サウ カム スリン	
同一行政区内	ドンデン ノイ ラオ ノック	3 2 - 1 1 -	2 -	1	1 2 1	13 1 -
同一郡内	ター ブ ラ ム	- 1				- 1
別郡	チュン ベ	-				-
他 県	サウ カム スリン	1 - -				1 - -
合 計		6 2 - 1	2 -	1	1 2 1	16

表 2 - 5 . 挙家移入世帯の帰村理由

帰村理由 移出理由	定住失敗	商店経営	養子	別居	洪水	夫と別離	妻の死亡	住み易い	合 計
ハ-ナ-デ-イ- 夫の婚出 妻の婚出 婚後夫の出生村へ別居 婚後妻の出生村へ別居	3	1	1	2	1 1	1	1	5	3 9 1 2 1
合 計	3	1	1	2	2	1	1	5	16

注) *定住失敗: HND に失敗。(): 離村期間
 1). HND 先で親族間で離反 (1952~66)。
 2). 博労に手を出し、借金をかかえた (1963~72)。
 3). HND 先で妻と離婚、再婚を繰り返す。姉を頼って帰村 (1937~75)
 *商店経: 商店経営 養子: おばの養子として
 *別居: 近隣村の親元より別居 洪水: 洪水が多いため
 *住安い: 住みやすから 夫離別: 夫と離別し、息子をつれて帰村
 *妻死亡: 妻の死亡により、子どもを連れて帰村
 *養母要: 養母が寂しがるため、妻を連れて帰村

表2-6. 挙家移入世帯の移入理由と移入後の状況

移入理由		移入後の状況	
1966	HN0 失敗（親族間での離反）	# 農地相続（夫の親から P.2.5+S.0.5rai）、他人の小作（P.24rai）	
72	HN0 失敗（事故）	# 農地相続（夫の親から P.1rai）、親すでに死亡、村内外の日雇いの労働	
73	夫と離別	# 農地相続（夫の親から P.1rai）、親すでに死亡、村内外の日雇いの労働	
75	(1). HN0 失敗（再々の離婚）	# 農地相続（夫の親から P.4rai）、親すでに死亡、娘婿が自転車修理工	
	(2). 妻死亡（タニアラで）	# 農地相続（夫の親から P.7.75rai）、親すでに死亡、娘婿が自転車修理工	
76	(3). 妻の親の HN0 地から帰村	# 農地相続（夫の親から P.5+S.0.25rai）、自転車修理 + 散髪屋（16,2008/y）	
77	住み易い（夫の義母の懇請）	# 農地相続（夫の親から P.4rai + 宅地）	
78	(1). 商店経営（DNより）	# 農地相続（夫の親から P.6+U.3.13rai）、農業専業	
	(2). 別居（DNより）	# 農地相続（夫の親から P.4rai）、夫がコーラ勤務（30,0008/y）	
79	(1). 洪水が多い	# 農地相続（夫の親から P.1rai、妻 P.11rai）	
	(2). 夫のお婆の養子として	# 農地相続（夫の親から P.1rai、妻 P.11rai）	
	(3). 住み易い	# 農地相続（夫の親から P.1rai、妻 P.11rai）	
80	洪水が多い	# 農地相続（夫の親から P.15rai）、夫：自動車運転手、妻：父の援助で農業	
81	(1). 住み易い	# 農地相続（夫の親から P.15rai）、夫：自動車運転手、妻：会社勤め	
	(2). 別居（DNより）	# 農地相続（夫の親から P.15rai）、夫：自動車運転手、妻：会社勤め	

表2-7. 1965～1981年における移入世帯の農地所有面積（1981年）

移入年度 所有面積	1965 ～69	70 ～74	75 ～79	80 ～81	戸数 合計	農地面 積合計
a=0	-	1	1	2	4	-
0<a<5	1	1	3	-	5	16.00
5≤a<10	-	-	3	-	3	22.13
10≤a<15	-	-	3	-	3	39.60
a=15	-	-	-	1	1	15.00
合計戸数	1	2	10	3	16	
合計面積	3.00	1.00	73.73	15.00		92.73
平均/戸 = 5.8rai						(1rai=0.16ha)